

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係基礎演習		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

産業関係基礎演習では、主にグループワークの補助、アドバイスや講義時間外での受講生からの質問への応答を中心に行いました。また、卒業生の方をお招きし、トークセッションを行いました。

自分が一回生の時に受けた基礎演習とは異なり、チューター制度が導入されたことで内容が変化していました。一番感じられたのは今年の講義ではより学生同士が話し合い、考える時間が多く設けられていたように思います。話し合いや発表準備などで学生の中でもまとまっているグループや役割分けがうまくいかないグループなどがみられ、やる気のある学生にとっては良いものであったと思います。その半面でサボるとまではいかないものの話し合いに積極的に参加しているとは言い難い学生がみられたのが残念でした。そんな学生を減らすためになにかチューターができることがあったのではないかと思います。やる気のある学生はもちろんのこと、一回生のための授業だからこそ受講するすべての学生に講義に興味、関心を持ってもらえるように働きたかったです。

チューター制度自体はとてもよいシステムだと思います。一年生にとっては上回生と話す機会を得ることができ、チューター本人も一回生を始め、先生がたと近い距離で話す機会を得ることができます。また、実際にサポートやアドバイスをすることは自らが作業をすること以上に考えることが多く勉強になりました。自分自身の力不足を感じることもあり、チューターとして講義内外で責任を完全に果たせたのかは不安なところ です。

<気づき>

講義のスタイルや内容によってはチューターが必ずしも必要ではない時間もありました。その中で今期は先生方が苦心してチューターの仕事を作ってくださったような側面もありました。また、チューターの1人が参加しないこともありもっと自覚を持つ必要があるように思いました。もちろんチューター本人の力量を踏まえてのことであるし、今年度から導入された制度なのでまだ完成形ではないとは思いますが、気になるところでした。

<今後のチューターまたは先生への提案>